

「平成28年度 第1回北杜市地域福祉計画策定委員会」会議録

1. 会議名：平成28年度 第1回北杜市地域福祉計画策定委員会
2. 開催日時：平成28年7月1日（金） 10時00分～11時55分
3. 開催場所：北杜市役所西会議室
4. 会議次第：
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状の交付
  - (3) 市長あいさつ
  - (4) 自己紹介
  - (5) 役員選出
  - (6) 議事録署名人の選出について
  - (7) 議事
    - ①北杜市地域福祉計画の概要及び第3次計画の方向性について
    - ②第2次地域福祉計画の取り組み状況
    - ③市民アンケート調査について
    - ④その他
  - (8) 閉会
5. 出席者
  - (1) 出席委員（敬称略）

長田和也、小林忠雄、小松亮太、小宮山明美、茅野光一郎、中嶋登美子、日野水丈士、深沢智彦、宮崎亮子、吉田百加利
  - (2) 事務局  
茅野福祉部長、三井介護支援課長、浅川健康増進課長、小澤子育て支援課長、福祉課 平島課長、渡辺、藤原
6. 傍聴人 なし

## 会 議

1. 開会（事務局 平島課長）

2. 委嘱状の交付

白倉市長より、委員10名に委嘱状を交付

3. 市長あいさつ（白倉市長）

4. 自己紹介

5. 役員選出

### 【事務局】

北杜市地域福祉計画策定委員会設置要綱第5条に基づき、委員会に会長1名、副会長1名を置くこととしている。会長、副会長の立候補はありますか。

（委員より「事務局一任」の声あり）

### 【事務局】

事務局一任との声を受け、前回の地域福祉計画策定時の委員会で会長を務められた茅野光一郎氏を会長に、副会長を務められた吉田百加利氏を副会長にそれぞれ選任したい。

（委員より「異議なし」との声あり）

委員から承認を受け、会長に茅野光一郎氏、副会長に吉田百加利氏が選出される。

6. 議事録署名人の選出について

### 【事務局】

議事録署名人については、各回で2名以上の署名を得ることとされている。名簿順（五十音順）でお願いさせていただきたい。

（委員より「異議なし」の声あり）

### 【事務局】

第1回北杜市地域福祉計画策定委員会の議事録署名人は長田和也氏と小林忠雄氏が務めることとする。

7. 議事

これより、会長が議長となり次の通り議事を進行する。

### ■（1）北杜市地域計画の概要及び第3次計画の方向性について

北杜市地域計画の概要及び第3次計画の方向性について事務局から説明がなされた。

（委員からの意見・質問等なし）

### ■（2）第2次地域福祉計画の取り組み状況

第2次地域福祉計画の取り組み状況について事務局から説明がなされた。

（委員からの意見・質問等なし）

### ■（3）市民アンケート調査について

市民アンケート調査について事務局から説明がなされた。

**【議長】**

今回のアンケートで北杜市として特徴的な設問はあるのか。

**【事務局】**

アンケートの質問内容は、地域福祉に関することを全体的に問うものである。なお、特徴的な設問として、北杜市は高齢化が比較的進んでいることを踏まえて、高齢者がいつまでも元気であるために必要な取り組みや、世代を超えた交流への参加意向について確認する設問などを入れている。

**【委員】**

地域で活動していて聞きたいのは、自治会に加入していない方々の意見である。自治会に加入している方は、地域の会合などで意見を聞くことができる。一方、北杜市には自治会に加入していない方も大勢いるが、そういう方も地域福祉の対象になるので、意見を聞いてみたい。

**【事務局】**

アンケート対象先の抽出については、地域の方から二千人を無作為で選ばせていただく。また、自治会に加入されていない方の意見については、地域課などで住民の意見を集計している資料があるので参考としたい。

**【委員】**

地域活動で心配しているのは、自治会の加入者が減少していることである。新しく北杜市に住み始めた方が自治会に加入しないことに加えて、これまで自治会に加入していた方が自治会を辞めてしまっており、地域の弱体化を感じている。アンケートの設問だけに限らず、地域福祉計画の施策を考える基本として、地域住民が自治会から去っている現状があることを認識してほしい。

**【委員】**

最近、民生委員からの情報提供が非常に重要になってきていると感じている。アンケートの情報収集に関する設問で、民生委員からボランティアに関する情報を得ている旨の回答を行いたい場合、選択肢がない。追加をしてはどうか。

また、今回は二千人を対象にアンケートを行うとのことであるが、どのくらいの回答数があれば、北杜市の地域計画に反映できる数字になると考えているのか。

**【委員】**

前回のアンケートと比べて、今回のアンケートがどう変わったのか教えてほしい。また、前回の計画で足りなかったところや弱かったところ、時代や地域の現状の変化など、前回の計画策定時との違いがあると思うが、アンケートをどう生かして、どう北杜市らしい計画につなげていくのか、事務局の考えを伺いたい。

**【委員】**

老人クラブの会員数が減少しているが、高齢でバスに乗れない方が増えていることも原因の1つとなっており、高齢者の交通手段を考えていかなければならないと感じている。ま

た、地域や市政の情報収集をテレビに頼っている高齢者も多いが、一方でケーブルテレビが映らない地域もある。高齢者の交通手段や情報収集についても、アンケートの内容に盛り込んでほしい。

#### 【事務局】

地域福祉は、介護、医療、健康、子育て、防災、交通など、様々な分野に渡るが、前回の計画と同様、地域住民がよりよい生活を過ごせるという、基本的な部分は今回策定する計画でも変わらないと考えている。一方で、過去5年間を振り返り、今後の5年、さらに先まで見通した計画を策定していかなければならない。

今回の地域福祉計画策定にあたっては、北杜市の現状をしっかりと分析できるよう、皆様からのご意見も踏まえた上で、もう少しアンケートの質問内容に工夫を凝らすように変更する。

なお、アンケートの回収数について、前回のアンケートは50%程度の回答であったが、今回も半数近い回答を想定している。

また、北杜市で策定している他の計画の状況も参考にして、今回の地域福祉計画に生かしていきたい。

#### 【議長】

本日の皆様からの意見を踏まえて、事務局はもう一度アンケートの内容を見直してください。ただし、今後のスケジュールもあるため、ある程度は事務局と会長、副会長に任せていただき、進めてさせていただくが、よろしいでしょうか。

(委員より「異議なし」の声あり)

### ■ (4) その他 (情報交換)

#### 【議長】

地域福祉計画の策定にあたって、地域の課題について認識しておかなければならない。各委員の立場から、北杜市の現状などについてお話を伺いたい。

#### 【委員】

国は約4人に1人が高齢者であるが、北杜市は約3人に1人が高齢者となっている。また、増富地区では、高齢化に加えて人口の減少が深刻である。小さい集落では、いつまで行政区を保つことができるか心配であり、行政区の在り方について真剣に考える必要があると感じている。

老人クラブでは、健康寿命を延ばすことに取り組みたい。ボランティアなどの活動に参加することは、高齢者の生きがいにつながり、地域全体も元気になってくるはずである。

地域福祉では、見守り活動が非常に重要である。北杜市は独居老人が多いため、地域でどういう見守りをしていくべきか、考えなければならない。

これからは地域の方への「おせっかい」が大切だと感じている。地域で困っている人に対して、誰が支援をすれば良いのか迷うことがある。他人の問題なので、勝手に手伝うことは難しいが、どこかで誰かが声をかけないと、問題が見過ごされてしまう。

**【議長】**

健康長寿を意識した地域活動への参加は良いことである。山梨県の健康寿命は全国1位であり、また、北杜市は要介護認定率が県内でも低いため、全国でも非常に健康に優れたまちであると言えるのではないかと。

地域の方を見守り、「おせっかい」をすることが、これからの時代は必要になってくる。知らん顔や見て見ぬふりをするのではなく、地域で困っている方を地域みんなで助けたいべきである。

**【委員】**

民生委員として活動しているが、若い人を巻き込んで地域の組織を運営していくことに難しさを感じている。勤めている方は、基本的に仕事を優先しなければならないため、なかなか都合が合わない。そのため、元気な高齢者が多い地域では、高齢者が集まった組織で活動するのも面白いかもしれない。

**【議長】**

10年後の高齢化率を考えた場合、北杜市は大変疲弊した地域になってしまうことを想像しなければならない。また、地域の役職を担う人が減少してしまうことも考えなければならない。

北杜市は、高齢化の最先端の地域であるため、他の自治体の動向などを見ている余裕はない。また、多くの地域が限界集落になってしまうため、早急に対策を考える必要がある。

**【委員】**

地域福祉という言葉は難しく、一般市民の皆さんにはなかなか理解されにくいと感じている。新たな地域福祉計画を策定し、推進していくのであれば、地域福祉という堅い言葉ではなく、もう少しわかりやすい言葉で表現した方がよい。

先ほど「おせっかい」という言葉が出ていたが、「おせっかい」はどの世代でも必要な言葉だと感じている。「おせっかい」は一步踏み込んだ取り組みであり、行動である。この際だから、北杜市は「おせっかい」という言葉を前面に出してもよいのではないかと。

ただし、「おせっかい」という言葉は迷惑に捉えられる可能性もある。また、子育てや高齢者福祉、障がい者福祉などでも受け入れられる言葉であるのか、配慮が必要かもしれない。

**【委員】**

障がい者施設を運営している立場としては、「おせっかい」という言葉は障がい者福祉でも受け入れられる言葉であると考えている。

障がい者施設では、地域の方から何をやっているのか分からないという声を頂くことが多い。一方で、地域の方から入所者に対して支援をしたいという声もよく頂く。

障がい者施設の入所者も地域の一員であるため、ごみ拾いや農業のお手伝いなど、地域の活動に参加したいという気持ちを持っているが、それをどういう形で発信していけばいいのか分からない。また、障がい者が地域の活動に参加するにあたり、受入態勢がどの程度整っているのか分からないなど、施設側として不安な面もある。地域の方から「おせっかい」として声を掛けて頂ければ、障がい者の方はもっと地域に参加していくことができるのでは

ないか。

**【委員】**

地域のボランティアグループが減少している。そのため、今後は個人がボランティアに積極的に参加していけるようにすることが大切だと思う。ボランティアは個人の生きがいになるとともに、活動を通じて交流が生まれるため、地域内の住民同士がお互いの理解を深めることもできる。なお、北杜市ではボランティアのポイント制度や養成講座の開催などを行っている。

**【委員】**

北杜市は交通の問題が大きい。難しいかもしれないが、もう少し住民の移動手段が充実できる北杜市ルールがあると素晴らしいのではないかと。北杜市は車がないと満足に移動できない地域であるが、公共交通だけでは思うようにいかないところもある。しかし、現状では福祉の移送を担っているNPO法人や団体が少なく、組織の立ち上げなどに対するサポートも少ない。

また、前回の地域w福祉計画策定時でも話題になっていたが、福祉における情報発信の充実を図るべきである。この5年間、情報発信の充実には取り組んできたと思うが、まだ地域に浸透していない。

**【議長】**

今回の地域福祉計画策定にあたって、できれば北杜市らしい計画にしたい。例えば、県内でも財政的に恵まれ、面積が小さく、交通網が充実している昭和町と似た地域福祉計画にはならないはずである。北杜市は、面積が広く、高齢化の最先端の地域であるなど、置かれている環境が異なる。なるべく、地域の現状を踏まえた計画にするべきである。

**【委員】**

育成会の加入者が減少しており、1つの地域では育成会が成り立たない状況である。また、自治会に加入していないため、育成会に参加できない子どももいる。子育てにおいて、自治会や育成会に助けられることは多く、また、地域の中で子どもの顔がわかることはすごく大切なことだと思う。自治会加入の有無にかかわらず、育成会への加入はできるようにした方が良いのではないかと。

**【議長】**

北杜市は他の地域から移住してくる方が多いが、移住者には自治会に加入しない方もいる。しかし、地域福祉という目線では、自治会の加入の有無に関わらず、対応していくことを考えていかなければならない。

また、人口減少や高齢化により、今後は限界集落になる地域が出てくるとされる。そういうときに、地域福祉はどのように対応していくべきなのか、考えておかなければならない。

**【事務局】**

地域福祉は多岐に渡るため、今後とも皆様のご意見やご指導をいただきたい。

**【議長】**

本日の議事は以上で終了とさせていただきます。活発な意見をありがとうございました。